



ハイナイト祈禱課題 2026年6月号

1. 社会のひずみの影響を受ける若者たちを覚えて

4月、イスラエルでは、若者による殺人事件が相次いで起こり、社会に影を落としています。

1つ目の事件は、イスラエルの建国記念日の夜、テルアビブ近郊のペタフ・ティクバで起こりました。ピザ屋の店員のヤマヌ・ベニヤミン・ザルカさんが、若者の集団から暴行を受け、死亡したのです。発端は、店内で、パーティー用のスプレーを噴射した若者たちをザルカさんが注意したことでした。

若者たちは、仕事を終えたザルカさんを待ち伏せして襲撃し、その場から逃走しました。警察は、12歳から17歳までの少年19人を、逮捕しました。致命傷は、15歳少年によるナイフの刺し傷でした。ザルカさんはエチオピア系のユダヤ人で、ユダヤ教の若者育成団体で、カウンセラーをしていた誠実な青年でした。

さらに同じ週、ベエル・シェバやイスラエル北部でも、若者による殺人事件が相次ぎました。イスラエルでは、一人の命を守るために、国中が叫び、祈り、時には命を懸けます。人質救出はまさにそうでした。しかし、今回の犠牲者たちは戦争やテロではなく、自国の若者たちの手で、命を奪われたのです。

イスラエルの人々は、この数年、国を揺るがす

衝撃的な出来事を次々と経験してきました。コロナ禍によるロックダウンや社会的孤独、10月7日の大虐殺、終わりの見えない戦争、空襲警報、繰り返される葬儀。イスラエルの若者たちは、数年後には「自分もいつか兵役に就き、戦場へ行く」という重圧の中で、育っています。そして、同世代が戦死する現実を見て生きています。

こうした長期的な緊張や教育の混乱が、子どもの心の健康を損ない、引きこもりや暴力につながる可能性が警告されてきました。実際、10代の若者の40%に暴力的、攻撃的な傾向が見られ、また60%以上が、うつ、不安、孤独感を抱えているという調査結果も出ています。

イスラエル国家監査官は、若者の暴力の広がりについて、「決して容認できない現象」であると警告し、政府と自治体の協力を訴えています。主が、怒りや不安を抱えたイスラエルの若者たちの心に深く触れ、癒やして下さるように破れ口に立って祈りましょう。



若者集団の暴行で死亡した
ヤマヌ・ベニヤミン・ザルカさん
©סגולות CC BY 4.0

主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦して下さるから。(イザヤ55:7)

- ①怒りや、不安に支配されているイスラエルの子どもたち、若者たちが主に立ち返ることができるように。
- ②長引く戦争や社会不安の中で、イスラエルの子どもたち、若者たちの心を、主が守り、癒やして下さるように。
- ③イスラエルの家庭、学校、地域社会が協力して、傷ついた次世代を支え、正しく導くことができるように。

2. 日本の無牧教会を覚えて

日本宣教リサーチによると、日本にあるプロテスタント教会約7700軒のうち、無牧教会は450軒以上です。2009年のデータでは、無牧の教会が約250軒だったことを考えると、この十数年で、約80%増えたこととなります。さらに、一人の牧師が複数の教会を牧会するケースも含めれば、専任の牧師がいない教会は1千軒を超えます。現在、牧師の平均年齢は62.2歳。一方で、35歳以下の教職者はわずか3.5%と、今後さらに教職者不足が進むことが懸念されます。

後継者不足は大きな課題ですが、その一方で神学校を卒業しても赴任する教会が見つからない事例も聞かれます。こうした状況を受け、「OCC無牧ミニストリーズ」では、無牧教会と献身者をつなぐ働きを行っています。

中には、20年以上牧師のいない教会や、また牧師が兼牧しているため、毎週礼拝がもてないにもかかわらず、信仰を守り続けている教会もあります。しかし、すべての教会は、キリストが目的を持ってその地にお建てになり、愛し導いておら

れるキリストのからだです。人数に関係なく、集う一人ひとは、キリストがご自身の命をもって愛しておられる存在です。キリストが教会を通してその地域とそこに住む人々に注いでおられる情

熱は絶えません。あらゆる課題に勝る主が、日本の無牧教会を支え、強めてくださるように。一つ一つの教会を町の光として主が尊く用い続けてくださるよう祈りましょう。

まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。(マタイ18:19~20)

- ①無牧の教会で信仰を守っているお一人おひとりが、主の愛と励ましを体験できるように。
- ②複数の教会を兼牧する牧師先生たちの心と体を主が守り支え、その愛と献身に報いてくださるように。
- ③無牧教会と献身者をつなぐ働きが祝福されるように。また、収穫の主が多くの働き人を日本に起こしてくださるように。

3. イスラエル高校生、来日交流プログラムを覚えて

今年8月、B.F.P. Japanでは、イスラエルから高校生たちを迎えて、日本のクリスチャンの高校生と交流するプログラムを企画しています。

2023年10月7日の大規模テロ以降、イスラエルの若者たちは、さまざまな社会の緊張状態の中

で過ごしています。数年後には兵役につく高校生たちに、イスラエルの外の世界を体験させてあげたい。そうした願いを持ったテルアビブの高校の先生方が、日本での研修旅行を計画しています。こうした中、B.F.P. Japanは、日本でイスラエルを愛するクリスチャンの高校生たちとの交流の機会を提供させていただけることになりました。現在、中東情勢が不安定なため、当初より規模を縮小して、4名が来日を予定しています。企画・引率の先生と生徒たちからビデオレターが届いています。ご覧ください。



イスラエルの高校生と日本の高校生の間、主の愛で結ばれた友情が築かれるように

映像はこちら ▶▶▶

<https://youtu.be/AdhLZLOwhao>



見よ。なんとという幸せ なんとという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって ともに生きることは。(詩篇133:1)

- ①不安定な中東情勢の中、無事に高校生たちが来日できるように。
- ②参加するイスラエルの高校生たちが、主の愛に触れ、将来への希望を受け取ることができるように。
- ③イスラエルの高校生たちと日本のクリスチャンの高校生たちの間に、主の愛で結ばれた友情が築かれるように。

「ハイレイトソング」 ▶▶▶
視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」 ▶▶▶
祈りの第一声として
祈禱課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイレイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org